

医会CPC、1996、11、富山

- 26) 吉田尚弘, 能沢 孝, 井川晃彦, 水牧功一, 藤木 明, 麻野井英次, 瀬戸 光, 井上 博: 123I-MIBG無集積例の心拍変動解析. 第27回北陸循環器核医学研究会, 1996, 12, 金沢.
- 27) 林 秀樹, 藤木 明, 碓井雅博, 井上 博: 特徴ある発症様式を有する特発性心室細動の1例. 第9回心臓性急死研究会, 1996, 12, 東京.

## 内 科 学 (3)

教 授	渡 辺 明 治
助 教 授	齋 藤 清 二
助教授(前)	田 中 三 千 雄
講 師	高 原 照 美
講 師	若 林 泰 文
助 手	南 部 修 二
助 手	清 水 幸 裕
助 手	岡 田 和 彦
助 手	愛 場 信 康
助 手	安 村 敏 勤
技 官	加 藤 芳 弘
	桑 原 芳 弘

### ◆ 著 書

- 1) Brandalise N.A., Montes C.G., Tanaka M., and Sakamoto T.: Tumores gástricos Uniéme, Campinas, San Paulo, 1996.
- 2) 渡辺明治編:「栄養免疫学一病態・疾患と治療」, 1-257, 医歯薬出版, 東京, 1996.
- 3) 渡辺明治, 岡崎 勲編:「細胞外マトリックスー臨床医学への応用」, 1-517, メディカルレビュー社, 東京, 1996.
- 4) 渡辺明治: 78. 脂肪肝の治療について. 「内科診療 Q & A」永野 允, 原田 尚, 藤沢 洸, 永野志朗編, 1052-1053, 六法出版社, 東京, 1996.
- 5) 渡辺明治: 90. 肝硬変の内科的治療 1) 栄養について. 「内科診療 Q & A」永野 允, 原田 尚, 藤沢 洸, 永野志朗編, 1078-1079, 六法出版社, 東京, 1996.
- 6) 渡辺明治: 91. 肝硬変の内科的治療 2) 薬物について. 「内科診療 Q & A」永野 允, 原田 尚, 藤沢 洸, 永野志朗編, 1080-1081, 六法出版社, 東京, 1996.
- 7) 渡辺明治: 7. 肝不全. 「Annual Review 消化器1996」178-184, 中外医学社, 東京, 1996.
- 8) 渡辺明治: 肝疾患. 「中高年の疾病と栄養」柴田博編著, 114-139, 建帛社, 東京, 1966.
- 9) 渡辺明治, 高原照美: 第III章 病態 4. 創傷治癒・再生. 「細胞外マトリックスー臨床医学への応用」渡辺明治, 岡崎 勲編著, 208-216, メディカルレビュー社, 東京, 1996.
- 10) 渡辺明治: 2. 肝, 胆のう・胆道, 膵, 腹膜・腸間膜疾患の検査. A. 生化学, 2) 腫瘍マーカー. 「ベッドサイト消化器病学」丹羽寛文, 中澤三郎,

- 辻 孝夫, 杉町圭蔵編, 249-255, 南江堂, 東京, 1996.
- 11) 渡辺明治: 第4章 肝硬変 (4) 肝性脳症とその最近の治療進歩. 「メディカル用語ライブラリー. 肝炎と肝硬変・肝癌—分子メカニズムから病態・診断・治療まで」小俣政男編, 148-149, 羊土社, 東京, 1996.
  - 12) 渡辺明治: 自己免疫性肝炎Ⅳ型の一小児例. 「自己免疫性肝疾患—その病態と治療」西岡幹夫, 井上恭一編, 124-128, 新興医学出版社, 東京, 1996.
  - 13) 渡辺明治: 自己免疫性肝炎Ⅱa型の一若年例. 「自己免疫性肝疾患—その病態と治療」西岡幹夫, 井上恭一編, 92-96, 新興医学出版社, 東京, 1996.
  - 14) 渡辺明治: 消化器疾患(7) 肝硬変, 肝不全. 「ビジュアル臨床栄養百科 第5巻」岡田 正, 小越章平, 細谷憲政, 武藤泰敏編, 62-65, 小学館, 東京, 1996.
  - 15) 渡辺明治: 救急で問題となる慢性疾患—消化器疾患. 「今日の救急治療指針」前川和彦, 相川直樹編, 671-676, 医学書院, 東京, 1996.
  - 16) 渡辺明治: 各種疾患の治療と看護 [消化器疾患] 肝性昏睡. 「今日の治療と看護」水島 裕監修, 357-358, 南江堂, 東京, 1996.
  - 17) 渡辺明治: 各種疾患の治療と看護 [代謝・内分泌疾患] (代謝疾患) アミノ酸代謝異常. 「今日の治療と看護」水島 裕監修, 406-408, 南江堂, 東京, 1996.
  - 18) 田中三千雄: 併用療法の評価とあり方. 「メディコピア33・消化性潰瘍—今までとこれから—」亀田治男他編, 173-176, 富士レビオ, 東京, 1996.
  - 19) 田中三千雄: 腸上皮化生の病態生理学的意義. 「胃炎研究の論点」福地創太郎編, 155-160, 国際医書出版, 東京, 1996.
  - 20) 田中三千雄: 質疑応答. 「胃疾患を考える—今何が問題となっているか—」並木正義編, 75, 医学図書出版, 東京, 1996.
  - 21) 斎藤清二, 渡辺明治: 脾未分化癌. 「脾臓症候群—その他の脾臓疾患を含めて—, 別冊日本臨床, 領域別症候群シリーズ10」斎藤洋一編, 303-306, 日本臨床社, 東京, 1996.
  - 22) 西村信行, 斎藤清二, 渡辺明治: 脾破骨細胞様巨細胞腫瘍「脾臓症候群—その他の脾臓疾患を含めて—, 別冊日本臨床, 領域別症候群シリーズ10」斎藤洋一編, 286-288, 日本臨床社, 東京, 1996.
  - 23) 田口恭仁子, 斎藤清二, 渡辺明治: 脾癌肉腫, 退形成性膵管癌, 巨細胞癌, 多形細胞癌. 「脾臓症候群—その他の脾臓疾患を含めて—, 別冊日本臨床, 領域別症候群シリーズ10」斎藤洋一編, 241-243, 日本臨床社, 東京, 1996.
  - 24) 北啓一朗, 斎藤清二, 渡辺明治: 脾悪性膨大細胞腫. 「脾臓症候群—その他の脾臓疾患を含めて—, 別冊日本臨床, 領域別症候群シリーズ10」斎藤洋一編, 219-221, 日本臨床社, 東京, 1996.
  - 25) 康山俊学, 樋口清博, 渡辺明治: 劇症肝炎. 「改訂版 救急医療の臨床」龍村俊樹編著, 582-588, 医薬ジャーナル社, 大阪, 1996.
  - 26) 樋口清博, 渡辺明治: 肝性昏睡. 「改訂版 救急医療の臨床」龍村俊樹編著, 589-598, 医薬ジャーナル社, 大阪, 1996.
  - 27) 高原照美, 渡辺明治: 第Ⅱ章 研究方法 7. 免疫電顕. 「細胞外マトリックス—臨床医学への応用」渡辺明治, 岡崎 勲編著, 167-176, メディカルレビュー社, 東京, 1996.
  - 28) 清水幸裕, 樋口清博, 渡辺明治: 治療における栄養と免疫—栄養薬理の立場から (dietary immunomodulation). 肝疾患. 「栄養免疫学」渡辺明治編, 208-215, 医歯薬出版, 東京, 1996.
  - 29) 清水幸裕, 菓子井良郎, 樋口清博, 渡辺明治: PBCにおけるT cell repertoire. 「自己免疫性肝疾患—その病態と治療」西岡幹夫, 井上恭一編, 158-164, 新興医学出版社, 東京, 1996.
  - 30) 宮林千春, 渡辺明治: C型慢性肝炎のインターフェロン治療効果の予測および治療後の線維化マーカーの推移. 「インターフェロン治療によりC型慢性肝炎の線維化改善はみられるか」戸田剛太郎, 小俣政男, 岡崎 勲, 丸山勝也編, 48-54, 中外医学社, 東京, 1996.
  - 31) 安村 敏, 新敷吉成, 樋口清博, 渡辺明治: 肝癌再発のBiology. Lac Z遺伝子導入細胞を用いた肝癌転移メカニズムの解明と免疫治療. 「肝と遺伝子'96」小俣政男編, 88-100, 1996.
  - 32) 舟木 惇, 田中三千雄: 十二指腸憩室. 「ベッドサイド消化器病学」丹羽寛文他編, 522-523, 南江堂, 東京, 1996.
  - 33) 舟木 惇, 田中三千雄: その他の疾患. 「ベッドサイド消化器病学」丹羽寛文他編, 524-528, 南江堂, 東京, 1996.
  - 34) 渡辺明治: 肝硬変, 肝性脳症. 「消化器疾患—最近の治療'95-'96」丹羽寛文, 杉町圭蔵, 戸田剛太郎編, 308-312, 南江堂, 東京, 1995. (1995年度追加)

◆ 原 著

- 1) Watanabe A., Wakabayashi H., and Kuwabara Y.: Nutrient-induced thermogenesis and protein-sparing effect by rapid infusion of a branched chain-enriched amino acid solution to cirrhotic patients. *J. Med.*, 27:176-182, 1996.
- 2) Tanaka M., Nanasawa H., Okuda K., and Watanabe A.: Abdominal symptoms, age, alcohol, smoking and gastritis in "Healthy" individuals. *Res. Commun. Alcohol Substances Abuse*, 17: 23-36, 1996.
- 3) Tanaka M., Kidoh Y., Kamei M., Terasaki T., Watanabe A., Sakamoto T., and Fujimaki M.: A new instrument for measurement of gastrointestinal mucosal color. *Dig. Endosc.*, 18: 139-146, 1996.
- 4) Hioki O., Minemura M., Shimizu Y., Kashii Y., Nishimori H., Takahara T., Higuchi K., Yoshitake Y., Nishikawa K., and Watanabe A.: Expression and localization of basic fibroblast growth factor (bFGF) in the repair process of rat liver injury. *J. Hepatol.*, 24: 217-224, 1996.
- 5) Terasaki T., Shimada K., Wakabayashi H., Tanaka M., and Watanabe A.: Study of the repairing process of gastric ulcer using multivariate analysis of bFGF-positive cells, haemodynamcis, PAS-positive mucus amount and glandular index in the gastric mucosa. *J. Gastroenterol. Haepatology*, 11: 928-937, 1996.
- 6) Okada K., Nannmark U., Vujanovic N.L., Watkins S., Basse P., Herberman R.B., and Whiteside T.L.: Elimination of established liver metastases by human interleukin 2-activated natural killer cells after locoregional or systemic adoptive-transfer. *Cancer Res.* 56:1599-1608, 1996.
- 7) Kobayashi M., Habuchi H., Habuchi O., Saito M., and Kimata K.: Purification and characterization of heparan sulfate 2-sulfotransferase from cultured chinese hamster ovary cells. *J. Biol. Chem.*, 271: 7645-7653, 1996.
- 8) Sato H., Goto W., Yamamura J., Kurokawa M., Kageyama S., Takahara T., Watanabe A., and Shiraki K.: Therapeutic basis of glycyrrhizin on chronic hepatitis B. *Antiviral Res.*, 30: 171-177, 1996.
- 9) Myers J.N., Yasumura S., Suminami Y., Hirabayashi H., Lin W.-c., Johnson J.T., Lotze M.T., and Whiteside T.L.: Growth stimulation of human head and neck squamous cell carcinoma cell lines by interleukin 4. *Clin. Cancer Res.*, 2: 127-135, 1996.
- 10) Whiteside TL., Chikamatsu K., Nagashima S., and Okada K.: Antitumor effects of cytolytic T lymphocytes (CTL) and natural killer (NK) cells in head and neck cancer. *Anticancer Res.*, 16: 2357-2364, 1996.
- 11) Tanaka M.: Quality of ulcer healing. *Revista da Faculdade de Ciências Médicas da Unicamp*, 5: 44-46, 1995. (1995年度追加)
- 12) 渡辺明治, 赤松興一, 沖田美佐子: 病態時における栄養必要量の決定法. 3) 臓器機能不全: 肝障害. *日本臨床栄養学会誌* 18: 25-28, 1996.
- 13) 馬場忠雄, 三好秋馬, 川井啓市, 加嶋 敬, 小林絢三, 鎌田武信, 下山孝, 渡辺明治, 小林健一, 郡 大裕, 福井 博, 大熊 稔, 北 徹, 近藤元治, 井上恭一, 勝 健一, 春日雅人, 千葉勉, 須山哲次, 多田正大, 大谷 透, 藤堂彰男: スクラルフオート液剤の逆流性食道炎に対する臨床第Ⅲ相試験. *診療と新薬* 33: 1457-1468, 1996.
- 14) 田中三千雄, 寺崎禎一: 十二指腸潰瘍癒痕部の色調に関する検討. *Gastroenterol. Endosc.* 38: 838-845, 1996.
- 15) 田中三千雄, 安藤隆夫, 伊部直之, ト部 健, 萩野正樹, 竹越國夫, 堤 幹宏, 中川彦人, 七澤洋, 米島 學, 根井仁一, 野田八嗣, 平井圭彦, 稲土修嗣, 磨伊正義: 消化性潰瘍維持療法の現況—多施設の集計報告—. *Gastroenterol. Endosc.* 38: 866-875, 1996.
- 16) 田中三千雄, 七澤 洋, 岡田利邦, 高間静子, 渡辺明治: 胃集検で発見された早期胃癌における他部位チェック例の分析. *富山医業大誌* 9: 43-48, 1996.
- 17) 菓子井良郎, 清水幸裕, 南部修二, 渡辺明治: B型慢性肝炎の肝内浸潤リンパ球におけるTCR Vβの解析—PCR法の応用—. *日本臨床* 53 (Suppl.): 155-160, 1995. (1995年度追加)
- 18) 菓子井良郎, 清水幸裕, 南部修二, 渡辺明治:

C型慢性肝炎の肝内浸潤リンパ球におけるTCR V $\beta$ の解析—免疫組織学的方法ならびにPCR法の応用—. 日本臨床 53(Suppl.): 642-647, 1995. (1995年度追加)

- 19) 沖田美佐子, 渡辺明治: 肝硬変の脂質代謝からみた栄養アセスメント. 消化と吸収 18: 87-90, 1995. (1995年度追加)
- 20) 武藤泰敏, 吉田 貴, 加藤昌彦, 佐藤俊一, 鈴木一幸, 加藤章信, 渡辺明治: 肝硬変患者における血清アルブミン値と予後—BCAA-G投与症例を対象として. JJPEN 17: 1135-1143, 1995. (1995年度追加)
- 21) 安村 敏, 樋口清博, 平林秀樹, 渡辺明治, Whiteside TL.: 新しく樹立された頭頸部扁平上皮癌の免疫学的特性 消化器と免疫. 31: 246-251, 1995. (1995年度追加)

#### ◆ 症例報告

- 1) Saito S., Aso M., and Watanabe A.: Common bile duct stones arising after endoscopic treatment for ampullary carcinoma. Int. Med. J., 3: 93-94, 1996.
- 2) Mizushima Y., Hirata A., Hori T., Sawazaki S., Sugiyama E., and Kobayashi M.: Antitussive effect of herbal medicine bakumondo-to: A case report. Am. J. Chinese Med. 16: 321-325, 1996
- 3) 斎藤清二, 樋口清博, 渡辺明治: 生薬を含む民間漢方薬により高度の血小板減少を繰り返した1例. 診断と治療 84(Suppl.): 868, 1996.
- 4) 山下 巖, 広川慎一郎, 唐木芳昭, 黒木嘉人, 谷英之, 青山圭一, 村上 純, 石沢 伸, 本間正教: 92歳の男性に発生した直腸内分泌細胞癌の1例. Endoscop. Forum Dig. Dis., 12: 21-125, 1996.
- 5) 山下 巖, 広川慎一郎, 唐木芳昭, 村上 純, 青山圭一, 酒井 剛: 直径10mmのss胃カルチノイドの1例. 外科診療 5: 617-621, 1996.
- 6) 安村 敏, 樋口清博, 沖田英明, 愛場信康, 土田敏博, 清水幸裕, 南部修二, 高原照美, 渡辺明治, 樋本尚志, 西岡幹夫: 甲状腺機能亢進症を伴った自己免疫性肝炎IIaの1例. Minophagen Med. Rev. 41: 229-34, 1996.
- 7) 北 啓一郎, 斎藤清二, 土田敏博, 清水幸裕, 南部修二, 樋口清博, 高原照美, 渡辺明治, 小泉富美朝: 脾原発ガストリノーマの多発性肝転移と肝細胞癌が併存した1例. 日本消化器病学会雑誌 93: 377-381, 1996.

#### ◆ 総 説

- 1) 渡辺明治: 肝硬変にみられるインスリン抵抗性のアミノ酸・蛋白代謝に及ぼす影響. Pharma Med 14: 132-136, 1996.
- 2) 渡辺明治: 消化器病患者の栄養管理—慢性肝炎, 肝硬変. 臨牀消化器内科 11: 503-510, 1996.
- 3) 渡辺明治: 「肝疾患 Q & A」肝疾患の治療 38. 肝疾患の生活指導: 断酒すべきか, 安静は必要か? medicina 33: 542-543, 1996.
- 4) 渡辺明治: 肝硬変と栄養管理. 臨床医 22: 454-457, 1996.
- 5) 渡辺明治, 高原照美: 肝発癌における肝幹細胞コンパートメントと伊東細胞の役割. Pharma Med 14: 138-149, 1996.
- 6) 渡辺明治: 肝性脊髄症と肝性ニューロパシー; 肝性脳症の鑑別疾患として. Pharma Med 14: 165-170, 1996.
- 7) 渡辺明治, 沖田美佐子: 肝疾患における脂質栄養治療. Pharma Med 14: 148-165, 1996.
- 8) 渡辺明治: 潜在性肝性脳症—最近の動向と今後の展開. Pharma Med 14: 177-190, 1996.
- 9) 渡辺明治: 部分脾動脈塞栓による肝硬変例の治療. Pharma Med 14: 177-182, 1996.
- 10) 渡辺明治: 症状からのチェックガイド 26. 黄疸. Modern Physician 16: 676-679, 1996.
- 11) 渡辺明治: ケース別・タイプ別栄養指導のポイントとタブー. 肝硬変 (肝不全) 患者の場合. 臨床栄養 88(臨時増刊号): 879-880, 1996.
- 12) 渡辺明治, 若林泰文, 折原正周, 中谷敦子: Helicobacter pyloriの胃内感染と肝性脳症の発現. Pharma Med 14: 178-186, 1996.
- 13) 渡辺明治, 安村 敏: TNF- $\alpha$ の細胞内シグナル伝達機構におけるセラマイドとスフィンゴミエリンの役割—肝細胞の壊死, アポトーシスとの関係. Pharma Med 14: 138-150, 1996.
- 14) 渡辺明治: 12. 肝性脳症. 「治療」標準処方ガイド '96, 肝, 胆, 脾疾患. 治療 (南山堂) 78 (増刊号): 851-853, 1996.
- 15) 渡辺明治, 沖田美佐子: 肝硬変例にみられるインスリン抵抗性と多価不飽和脂肪酸欠乏との関連性. Pharma Med 14: 139-153, 1996.
- 16) 渡辺明治, 樋口清博, 清水幸裕, 近藤康得, 郡英明: イムノカルによる慢性肝炎の栄養薬理学的治療を目指して—リンパ球内グルタチオン濃度と細胞性免疫. Pharma Med 14: 219-230, 1996.
- 17) 渡辺明治: 分岐鎖アミノ酸製剤配合剤 (リー

- バクト顆粒). 新しい治療薬のポイント(No.5, 1996, 後期): 127-135, 1996.
- 18) 渡辺明治: 肝硬変を伴わない門脈-大循環性脳症-その分類, 診断, 治療. *Pharma Med* 14: 219-229, 1996.
- 19) 渡辺明治, 沖田英明, 渡辺直人, 野口 京, 清水正司, 瀬戸 光: 肝性脳症(肝硬変)例における海馬の形態的, 機能的変化と神経心理学的アプローチ. *Pharma Med* 14: 183-191, 1996.
- 20) 渡辺明治: Clinical Methodology 潜在性肝性脳症を診断-コンピューター化した神経心理学的検査法. *Molecular Med* 33: 1439-1440, 1996.
- 21) 田中三千雄, 稲土修嗣: 十二指腸炎(3). 臨床的立場から. *臨床消化器内科* 11: 219-226, 1996.
- 22) 田中三千雄, 伊藤博行: 急性十二指腸炎. *臨床消化器内科* 11: 260-261, 1996.
- 23) 樋口清博, 渡辺明治: <肝炎ウイルス臨床の進歩>劇症肝炎のメカニズムと治療対策. *総合臨床*45: 2533-2538, 1996.
- 24) 高原照美, 渡辺明治: 肝線維化の分子生物学的機構. *医学のあゆみ* 176: 887-892, 1996.
- 25) 稲土修嗣, 田中三千雄: 4点固定法. *消化器内視鏡*. 8: 499-507, 1996.
- 26) 若林泰文, 渡辺明治: 消化器疾患の治療-胃炎. *Medicament News* 1530: 4-6, 1996.
- 27) 若林泰文, 渡辺英伸, 味岡洋一, 田中三千雄, 渡辺明治: 十二指腸炎 病理学的な立場から. *臨床消化器内科* 11: 201-208, 1996.
- 28) 舟木 惇, 田中三千雄: 下血と小腸内視鏡検査. *カレントセラピー*. 14: 423-427, 1996.
- 29) 安村 敏, 渡辺明治: <特集 肝疾患の評価と対応-合理的診療を目指して>薬剤性肝障害の診断と対応. *Med Practice* 13: 1389-1394, 1996.
- 30) 安村 敏, 渡辺明治: トランスアミナーゼが正常で軽度の貧血とZTT, TTT高値をきたす病態. *医事新報* 3776: 108-110, 1996.
- 31) 土田敏博, 日置 将, 矢田 豊, 原田雷太郎, 安村 敏, 愛場信康, 清水幸裕, 南部修二, 高原照美, 樋口清博, 渡辺明治: 劇症肝炎をめぐる新しい考えかた. *消化器科* 22: 713-719, 1996.
- 32) 西森 弘, 渡辺明治: 各種病態のリハビリテーション 慢性肝炎・肝硬変. *臨床と研究* 73: 1287-1290, 1996.
- 33) 沖田英明, 渡辺明治: 緊急を要する重症肝胆膵疾患の診断とその対策. 肝性脳症(付酵素欠損症). *肝胆膵* 33: 681-687, 1996.
- 34) 寺崎禎一, 稲土修嗣: 内視鏡医に必要な基礎知識. 色素内視鏡. *消化器内視鏡* 8: 1114-1117, 1996.
- 35) 樋口清博, 安村 敏, 清水幸裕, 渡辺明治: 肝癌の治療と予後. 免疫療法, 臨床看護 21: 1051-1055, 1995. (1995年度追加)
- 36) 樋口清博, 渡辺明治: 肝不全の病因と病態. 急性肝不全. 病態の経過観察-合併症について. *肝胆膵* 31: 817-822, 1995. (1995年度追加)
- 37) 菓子井良郎, 渡辺明治: 肝炎と細胞接着分子. *モダンフィジシャン* 15: 73-76, 1995. (1995年度追加)
- ◆ 学会報告
- 1) Watanabe A., Kuwabara Y., Murata H., and Kobashi K.: Determination of ammonia contents in exhaled air and its clinical significance for early detection of hepatic encephalopathy. 9th International Symposium on Ammonia, 1996, 5, Newcastle.
- 2) Watanabe A., Kuwabara Y., Kato A., Sato S., Kawamura K., Hatori M., Tajiri S., Kojima T., and Suzuki K.: Computer-assisted quantitative neuropsychological tests for diagnosing subclinical encephalopathy in patients with liver cirrhosis. 9th International Symposium on Ammonia, 1996, 5, Newcastle.
- 3) Watanabe A.: Quantitative neuropsychological tests for detection of subclinical hepatic encephalopathy in patients with liver cirrhosis-Development of a new computer system. 10th Asian-Pacific Congress of Gastroenterology, 1996, 9, Yokohama.
- 4) Watanabe A., Sakai T., Sato S., and Okita H.: Does lactulose improve psychometric tests and quality of life in cirrhotic patients with subclinical encephalopathy (Selected as a Poster Review Session), American Association for the Study of Liver Diseases, 1996, 11, Chicago.
- 5) Nambu S., Takahara T., Higuchi K., and Watanabe A.: Activity of matrix metalloproteinase 2 in human hepatocellular carcinoma. American Association for the Study of Liver Diseases, 1996, 11, Chicago.
- 6) Murakami J., Takaya K., Yoshida T.,

- Okabe M, Kamisaki Y, Nagaki Y., and Onozu H: Element constituents of human blood cells observed by ion microscopy. 10th International Congress of Histochemistry and Cytochemistry, 1996, 8, Kyoto.
- 7) Okabe M, Takaya K., Murakami J., and Yoshida T.: Ion microscopy of the mouse pancreas on microwave cryo-fixed cryostat sections. 10th International Congress of Histochemistry and Cytochemistry, 1996, 8, Kyoto.
- 8) Aiba N., Watanabe A., Morioka J., Orihara T., Yata Y., Okada K., Furui K., Nambu S., and Miyagiwa M.: A new classification of the portal-systemic shunt which causes non-cirrhotic hepatic encephalopathy. 10th Asian-Pacific Congress of Gastroenterology, 1996, 9, Yokohama.
- 9) Miyamoto M., Shimizu Y., Okada K., Higuchi K., and Watanabe A.: Effect of interleukin 8 on autocrine growth and production of tumor-associated substances in human liver tumor cell lines. 10th Asian-Pacific Congress of Gastroenterology, 1996, 9, Yokohama.
- 10) Yata Y., Takahara T., Furui K., Zhang LP., Tsuchida T., and Watanabe A.: Expression of matrix metalloproteinase-1 (MMP-1) and tissue inhibitor of metalloproteinase-1 (TIMP-1) in liver injury. 10th Asian-Pacific Congress of Gastroenterology, 1996, 9, Yokohama.
- 11) Zhang LP., Takahara T., Hurui K., and Watanabe A.: Immunoelectron microscopic study of caldesmon human liver. 第28回臨床電子顕微鏡学会総会, 1996, 10, 大阪.
- 12) 高原照美, 古井 啓, 矢田 豊, 張 立平, 金博, 渡辺明治, 佐藤 博: 肝線維化過程における膜型メタロプロテアーゼ(MT-MMP)の動態とその局在. 第43回マトリックス研究会, 1996, 3, 名古屋.
- 13) 愛場信康, 松浦美穂子, 土田敏博, 森岡潤一郎, 北 啓一朗, 斎藤清二, 渡辺明治: 偽性Bartter症候群およびチアミン欠乏による乳酸アシドーシスが疑われた神経性食思不振症の1例. 第168回日本内科学会北陸地方会, 1996, 3, 富山.
- 14) 國谷 等, 荒井信貴, 七澤 洋, 伊藤博行, 太田正之, 奥田治爾, 澤崎邦廣, 藤田秀春: 早期に診断・治療しえた特発性食道破裂の1例. 第168回日本内科学会北陸地方会, 1996, 3, 富山.
- 15) 沖田英明, 稲土修嗣, 宮際 幹, 楠 憲夫, 長谷川洋, 荒川文敬, 中嶋憲一: メッケル憩室症の1例. 第168回日本内科学会北陸地方会, 1996, 3, 富山.
- 16) 青山圭一, 長沼甲太郎, 村上 純, 香取美智子, 下野真由美, 赤川直治, 寺田康人: 四肢の浮腫, 知覚異常と関節炎を主徴とした好酸球増加症候群の1例. 第168回日本内科学会北陸地方会, 1996, 3, 富山.
- 17) 村上 純, 高屋 憲一, 吉田 淑子: マウスの肝臓および脾臓の新鮮凍結乾燥超薄切片の透過電顕像と微細構造の元素組成. 第101回日本解剖学会, 1996, 4, 福岡.
- 18) 高屋 憲一, 神前 裕一, 吉田 淑子, 村上 純: イオン顕微鏡(IMS-6f)による赤腹イモリ背部皮膚黒色素胞果粒の金属元素の検出. 第101回日本解剖学会, 1996, 4, 福岡.
- 19) 加藤 勤, 村嶋 誠, 宮川芳一, 矢田 豊, 村上 純, 山崎国男, 島田長樹, 若林泰文, 渡辺明治: 非ホジキンリンパ腫における消化管病変(特にMALT型リンパ腫)の検討. 第93回日本内科学会講演会, 1996, 4, 横浜.
- 20) 愛場信康, 原田雷太郎, 北 啓一朗, 清水幸裕, 南部修二, 斎藤清二, 渡辺明治: B型慢性肝炎におけるHBV pre-C/core領域のquasispeciesについて. 第93回日本内科学会講演会, 1996, 4, 横浜.
- 21) 若林泰文, 渡辺明治: 胃粘膜防御機構における胃粘膜リン脂質構成脂肪酸の不均衡. 第82回日本消化器病学会総会, 1996, 4, 神戸.
- 22) 中村 暁, 宮元 歩, 土田敏博, 若林泰文, 渡辺明治: ヒト培養大腸癌細胞に対する多価不飽和脂肪酸の抗腫瘍効果と大腸癌細胞膜リン脂質分画の脂肪酸組成の検討. 第82回日本消化器病学会総会, 1996, 4, 神戸.
- 23) 愛場信康, 新敷吉成, 清水幸裕, 加藤 勤, 原田雷太郎, 土田敏博, 南部修二, 高原照美, 樋口清博, 渡辺明治: 造血器腫瘍例における化学療法に伴うウイルス肝炎重症化とその対策. 第22回日本急性肝不全研究会, シンポジウム, 1996, 4, 神戸.
- 24) 安村 敏, 新敷吉成, 樋口清博, 岡田和彦, 清水幸裕, 南部修二, 渡辺明治: TNF誘導体(F4614)による肝癌治療の試み. 第32回日本肝臓学

- 会総会, ポスター, 1996, 4, 神戸.
- 25) 高原照美, 古井 啓, 矢田 豊, 張 立平, 舟木 淳, 伊藤博行, 佐藤 博, 渡辺明治: 肝線維化過程における各種マトリックスメタロプロティナーゼ(MMP)の肝組織内発現の検討. 第32回日本肝臓学会総会, 1996, 4, 神戸.
- 26) 清水幸裕, 岡田和彦, 菓子井良郎, 西森 弘, 宮元芽久美, 樋口清博, 渡辺明治: 各種肝疾患においてcostimulatory分子, B7-1とB7-2, の肝内発現様式の違いについて. 第32回日本肝臓学会総会, 1996, 4, 神戸.
- 27) 樋口清博, 渡辺明治: 抗LKM1抗体, 抗SLA抗体, 抗平滑筋(アクチン)抗体からみた自己免疫性肝炎の診断—C型慢性肝炎との対比. 第32回日本肝臓学会総会, パネルディスカッション, 1996, 4, 神戸.
- 28) 土田敏博, 芳尾幸松, 新敷吉成, 安村 敏, 矢田 豊, 愛場信康, 清水幸裕, 南部修二, 高原照美, 樋口清博, 渡辺明治: SV-40 large T抗原をトランスフェクトした株化ヒト胎児肝細胞による可溶性TNF- $\alpha$ 受容体の産生とその制御. 第32回日本肝臓学会総会, 1996, 4, 神戸.
- 29) 清水幸裕, 岡田和彦, 菓子井良郎, 宮元芽久美, 新敷吉成, 安村 敏, 樋口清博, 渡辺明治: Interleukin-10によるヒト肝癌細胞B7-1分子発現の制御とその意義について. 第32回日本肝臓学会総会, ポスター, 1996, 4, 神戸.
- 30) 南部修二, 高原照美, 新敷吉成, 佐伯美雪, 樋口清博, 渡辺明治: ヒト肝細胞癌組織における活性型MMP-2およびMMP-9の検討. 第32回日本肝臓学会総会, 1996, 4, 神戸.
- 31) 新敷吉成, 安村 敏, 樋口清博, 岡田和彦, 清水幸裕, 南部修二, 渡辺明治: マウス同系肝癌細胞を用いたTNF誘導体(F4614)の抗腫瘍効果の検討. 第32回日本肝臓学会総会, ポスター, 1996, 4, 神戸.
- 32) 矢田 豊, 高原照美, 古井 啓, 張 立平, 土田敏博, 渡辺明治: 肝障害モデルおよび慢性肝疾患組織におけるTIMP-1の遺伝子発現の検討. 第32回日本肝臓学会総会, 1996, 4, 神戸.
- 33) 稲土修嗣, 田中三千雄: 早期胃癌に対する内視鏡的胃粘膜切除術(4点固定法)—分割追加切除における有用性—. 第51回日本消化器内視鏡学会総会, ワークショップ6: 内視鏡的粘膜切除術の進歩, 1996, 4, 神戸
- 34) 笹川貴代, 沖田美佐子, 加藤 勤, 村上 純, 渡辺明治: 多発性骨髄腫例にみられるリン脂質代謝の異常と脂肪酸栄養治療の可能性. 第19回日本栄養アセスメント研究会, 1996, 5, 久留米.
- 35) 宮元 歩, 若林泰文, 樋口清博, 渡辺明治, 沖田美佐子: 肝硬変例にみられる胃粘膜リン脂質構成脂肪酸の異常とその是正. 第19回日本栄養アセスメント研究会, 1996, 5, 久留米.
- 36) 渡辺明治: 高アンモニア血症: 呼気測定 of 臨床における意義. 第2回呼気生化学研究会, 1996, 5, 大阪.
- 37) 斎藤清二, 北啓一朗, 坂本美奈子, 初瀬リマ, 大澤幸治, 渡辺明治, 井口英子: 十二指腸潰瘍を伴った不登校中学生男子の治療経過—箱庭, 夢, イメージを通じて—. 第37回日本心身医学会中部地方会, 1996, 5, 名古屋.
- 38) 窪田芳樹, 原 政博, 片倉正文, 宮林千春, 四柳関郎: 経皮内視鏡的胃瘻造設術を施行した15例の検討. 第40回日本消化器内視鏡学会甲信越地方会, 1996, 6, 新潟.
- 39) 沖田英明, 愛場信康, 新敷吉成, 若林泰文, 斎藤清二, 渡辺明治, 田中三千雄, 坂本 隆, 藤巻雅夫, 青山圭一: 下血を契機に発見された十二指腸平滑筋肉腫の一例. 第82回日本消化器病学会北陸支部例会, 1996, 6, 福井.
- 40) 岩本真也, 中谷敦子, 折原正周, 五十嵐雅秀, 若林泰文, 渡辺明治, 増山喜一, 新井英樹, 坂本隆, 藤巻雅夫, 松井一裕, 北川正信: イレウスにて発症し、小腸造影が診断上有用であった空・回腸原発悪性リンパ種の1例. 第82回日本消化器病学会北陸支部例会, 1996, 6, 福井.
- 41) 五十嵐雅秀, 稲土修嗣, 寺崎禎一, 初瀬リマ, 宮際 幹: 大腸における4点固定法変法(3点固定法)による内視鏡的粘膜切除術. 第67回日本消化器病学会北陸地方会, 1996, 6, 福井.
- 42) 矢田 豊, 新敷吉成, 土田敏博, 安村 敏, 古井 啓, 南部修二, 高原照美, 渡辺明治: 正常ヒト胎児肝細胞株(NFL/T)におけるTNF- $\alpha$ 受容体の発現とその意義. 第3回肝細胞研究会, 1996, 6, 広島.
- 43) 原田雷太郎, 南部修二, 新敷吉成, 安村 敏, 愛場信康, 岡田和彦, 清水幸裕, 樋口清博, 渡辺明治: 5年以上無再発生存の肝細胞癌の2例. 第32回日本肝癌研究会学術大会, 1996, 6, 大阪.
- 44) 渡辺明治: 潜在性肝性脳症—神経心理学的アプローチ. 第13回富山「脳と精神機能」研究会, 1996, 7, 富山.
- 45) 宮元芽久美, 清水幸裕, 岡田和彦, 樋口清博, 渡辺明治: IL-8によるヒト培養肝細胞癌のオート

- クライン増殖と腫瘍関連物質の産生に及ぼすIL-2 アンチセンスDNAの影響. 「肝と遺伝子」研究会, 1996, 8, 那須.
- 46) 品川和子, 南部修二, 原田雷太郎, 折原正周, 安村 敏, 愛場信康, 岡田和彦, 高原照美, 樋口清博, 斎藤清二, 渡辺明治: 消化管出血で発症した比較的若年者C型肝炎の2例. 第170回日本内科学会北陸地方会, 1996, 9, 福井.
- 47) 渡辺明治: 肝臓病の食事治療. 第9回日本消化器病学会市民公開講座, 1996, 9, 富山.
- 48) 北啓一朗, 斎藤清二: K-ras点突然変異に特異的なアンチセンスオリゴヌクレオチドを用いた膵臓癌の遺伝子治療. 第38回日本消化器病学会大会, 1996, 9, 横浜.
- 49) 五十嵐雅秀, 稲土修嗣: 大腸における4点固定法による内視鏡的粘膜切除術. 第52回日本消化器内視鏡学会総会. (VTR), 1996, 9, 横浜.
- 50) 宮崎孝子, 折原正周, 村上 純, 加藤 勤, 南部修二, 渡辺明治: B型慢性肝炎の経過中に腹部腫瘤を形成した多発性骨髄腫の1例. 第14回日本血液学会北陸地方会, 1996, 9, 金沢.
- 51) 槇本伸哉, 宮林千春, 片倉正文, 窪田芳樹, 四柳関郎, 大上英夫, 宗像周二, 唐木芳明: 幽門部狭窄を伴った腸管気腫性嚢胞症(PCI)の1例. 第41回東信医学会, 1996, 9, 上山田.
- 52) 斎藤清二: 非個人的心理療法による食行動異常の治療—比較的短期間に寛解した神経性過食症の1事例—. 第15回日本心理臨床学会大会, 1996, 10, 東京.
- 53) 岡田和彦, 渡辺明治, 樋口清博, 近藤康得, 郡英明: 乳清蛋白(イムノカル)による慢性肝炎の栄養薬理学的治療を目指して. 第18回日本臨床栄養学会総会, 1996, 10, 仙台.
- 54) 岩本真也, 中谷敦子, 奥田智子, 折原正周, 新敷吉成, 五十嵐雅秀, 若林泰文, 渡辺明治: 在宅経腸栄養法(HEEH)で緩解を維持しているクローン病の1例. 第83回日本消化器病学会北陸支部例会, 1996, 10, 福井.
- 55) 槇本伸哉, 宮林千春, 窪田芳樹, 片倉正文, 四柳関郎, 飯島健司, 宗像周二, 大上英夫, 唐木芳明, 杉山茂樹, 古里征國: 術前の化学療法が奏功した縦隔原発yolk sac tumorの1例. 第99回日本内科学会信越地方会, 1996, 10, 松本.
- 56) 道野淳子, 多葉田祥代, 西野 主眞, 樋口清博, 古井 啓, 渡辺明治: マイクロプレートを用いた自動血液型判定システムの開発. 第14回日本輸血学会北陸支部総会, 1996, 10, 富山.
- 57) 多葉田祥代, 渡辺好美, 道野淳子, 西野主眞, 樋口清博, 古井 啓, 渡辺明治, 深松順一, 石田達樹, 林 隆一: 当院における輸血管理システムの現況—第2報—. 第14回日本輸血学会北陸支部総会, 1996, 10, 富山.
- 58) 青山圭一, 長沼甲太郎, 平田篤志, 宮元 歩: ciprofloxacinと他のニューキノロン系抗菌剤にて交叉性に薬剤性肝障害を呈した一例. 第31回日本肝臓学会西部会, 1996, 11, 四日市.
- 59) 原田雷太郎, 愛場信康, 桑原芳弘, 北啓一朗, 南部修二, 高原照美, 樋口清博, 斎藤清二, 渡辺明治: B型慢性肝疾患におけるHBc抗原の肝細胞内局在とpre-C変異のおよぼす影響について. 第31回日本肝臓学会西部会, 1996, 11, 四日市.
- 60) 河相 覚, 真野鋭志, 桑原芳弘, 沖田英明, 樋口清博, 渡辺明治: 肝性脳症に関する呼気生化学的研究(1)—呼気中H<sub>2</sub>とCH<sub>4</sub>の同時測定による二糖類代謝の検討. 第31回日本肝臓病学会西部会, 1996, 11, 四日市.
- 61) 青山圭一, 長沼甲太郎, 平田篤志, 宮元 歩: ciprofloxacinと他のニューキノロン系抗菌剤にて交叉性に薬剤性肝障害と呈した1例. 第31回日本肝臓学会西部会, 1996, 11, 四日市.
- 62) 松岡裕士, 安藤岳彦, 陳 明, 河野一実, 松岡美穂, 伊藤哲史, 有馬啓治, 渡辺精四郎, 西岡幹夫, 渡辺明治, 児玉隆浩, 白木和夫, 清澤研道, 宮地清光, 中沼安二: 本邦における自己免疫性肝炎(AIH) III型症例について. 第31回日本肝臓学会西部会, 1996, 11, 四日市.
- 63) 奥田智子, 中谷敦子, 折原正周, 五十嵐雅秀, 芳尾幸松, 中村 暁, 徳舛康良, 圓谷朗雄, 坂東毅, 若林泰文, 渡辺明治, 本間正教: 上部消化管内視鏡検査で診断された十二指腸転移性悪性黒色腫の1例. 第68回日本消化器内視鏡学会北陸地方会, 1996, 11, 金沢.
- 64) 宮林千春, 槇本伸哉, 窪田芳樹: C型慢性肝炎のインターフェロン療法における血清総胆汁酸の変動について. 第3回上越リバーカンファレンス, 1996, 12, 上越.
- 65) 窪田芳樹, 原 政博, 宮林千春, 片倉正文, 飯島健司, 四柳関郎: 急性胆嚢炎における超音波誘導下胆嚢ドレナージの有用性. 第40回東信医学会, 1995, 11, 佐久. (1995年度追加)
- 66) 菓子井良郎, 清水幸裕, 南部修二, 峯村正実, 樋口清博, 渡辺明治: 慢性肝炎における肝内浸潤Bリンパ球のクロナリティーの解析. 第31回日本肝臓学会, 1995, 7, 福岡. (1995年度追加)

67) 二谷立介, 野口 京, 中嶋愛子, 亀井哲也, 瀬戸 光, 柿下正雄, 渡辺明治: MRIによる肝性脳症の客観評価と重症度判定. 第53回日本医学放射線学会, 1994, 4, 神戸. (1994年度追加)

#### ◆ その他

- 1) 渡辺明治: 肝性脳症はprimary gliopathyか? Med Practice 13: 145, 1996.
- 2) 渡辺明治: インスリン抵抗性と食脂質. Med Practice 13: 300, 1996.
- 3) 渡辺明治: 栄養薬理学 - nutritional pharmacology. 治療学 30: 276, 1996.
- 4) 渡辺明治: 肝疾患と経腸栄養. 経腸栄養の進歩と臨床の実際, 日本短波放送, ファーマインターナショナル, 大阪, 38-41, 1996.
- 5) 渡辺明治: View Spot 運動を処方する. 内科 77: 842, 1996
- 6) 渡辺明治: トランス酸とインスリン抵抗. 治療学 30: 522, 1996
- 7) 渡辺明治: 肝細胞癌の治療法の選択 - 長期生存例の背景. Modern Physician 16: 933, 1996.
- 8) 渡辺明治: TNF- $\alpha$ は正常肝細胞を障害するか? Med Practice 13: 1297, 1996.
- 9) 渡辺明治: 自己免疫性肝炎II型 はじめに. Minophagen Med Rev 41: 227-228, 1996.
- 10) 渡辺明治: 序 栄養免疫学 - 病態・疾患と治療 (渡辺明治編). 医歯薬出版, 東京, 1996.
- 11) 渡辺明治: 診療の秘訣 精神疾患と肝性脳症, Modern Physician 16: 1051, 1996.
- 12) 渡辺明治, 高原照美, 常盤孝義: 劇症肝炎の早期診断と治療. 厚生省特定疾患「難治性の肝疾患」調査研究班 平成七年度研究報告, 80-82, 1996.
- 13) 渡辺明治: マンガン中毒と肝性脳症. Med Practice 13: 1787, 1996
- 14) 渡辺明治, 岡崎 勲: 序. 「細胞外マトリックス - 臨床医学への応用」渡辺明治, 岡崎 勲編著, メディカルレビュー社, 東京, 1996.
- 15) 武藤泰敏, 沖田 極, 渡辺明治: 座談会 非代償性肝硬変患者のQOLを改善する分岐鎖アミノ酸製剤. 日経メディカル 339: 21-23, 1996.
- 16) 沖田 極, 渡辺明治, 岡 博子, 西村秀男: 座談会「慢性肝不全治療と栄養 - 食事療法と肝不全用経口栄養剤の役割」. 日経メディカル 341: 83-88, 1996.
- 17) 田中三千雄: 特集: 安全な胃切除を求めて. 序説. 消化器内視鏡. 8: 446, 1996.
- 18) 田中三千雄: 編集あとがき. Gastroenterol.

Endosc. 38: 551, 1996.

- 19) 田中三千雄: 編集あとがき. Gastroenterol. Endosc. 38: 999, 1996.
- 20) 渡辺明治: 巻頭言 肝癌診療の現状と問題点. Modern Physician 15: 1407, 1995. (1995年度追加)
- 21) 渡辺明治: 潜在性肝性脳症の簡易診断法とその2病型. Med Practice 12: 1816, 1995. (1995年度追加)
- 22) 渡辺明治, 谷川久一: 肝硬変. 臨床医学の最前線 - 病態と対策シリーズ. 第24回日本医学会総会会議II: 192, 1995. (1995年度追加)
- 23) 渡辺明治, 大柳治正: はじめに 消化器疾患の栄養アセスメント. 消化と吸収 18: 74, 1995. (1995年度追加)